

留学体験レポート

21016059 鈴木桃佳

韓国留学へ行く前から韓国本場の食べ物を食べれることをとても楽しみにしていた。辛いものはそこまで得意ではないほうであるが、食生活で苦痛を感じたことはほとんどなかった。しかし、日本にいるときより米を食べる機会というものは激減し、ラーメンやパンを良く食べていた。寄宿舍に電子レンジも炊飯器もなかったため、ご飯をあまり食べることが出来なかった。ご飯が食べなくなったら近くのお店へ行ってよく食べていた。韓国のお店は日本よりも提供する食べ物の量が多いが値段はとても安い。そして韓国では友達と分け合って食べる文化が一般的であるため、そのようにして食べるともっと安く食べることができた。

韓国ソウルでの生活は新潟にずっと住んでいた私にとってはとても新鮮で毎日が楽しかった。キョンヒ大学があるフェギは静かなところもあればにぎわっているところもあり、遊びたいときは遊ぶことが出来、休みたいときはゆっくり休めるような環境が整っていた。寄宿舍での生活も最初はもちろん両親がいないところでの生活ということで不便だと思うことは多かった。しかし、親元を離れて生活するということは毎日の両親の苦勞を知るということにも繋がるし、1人暮らしの練習ともいえるためとても重要なことであると思った。友達と毎日一緒に過ごすことは楽しかったが苦痛であると思ったこともあった。しかしそのようなこともひとつの経験であると考えた。

そして留学前、韓国での生活でトータルどのくらいのお金を使うのかという疑問に対しては鮮明にわかった。韓国はカード大国であるためクレジットカードを持っていくことを勧められた。韓国で銀行口座も作るため、現金だけを持っていても大丈夫である。キャッシュカードがデビットカードにもなるし、電車やバスも乗れるからだ。現金だけを持っていく場合は少し多めに持っていくことを勧める。現金を手で持っていきのが怖いと思う場合は、海外送金をしてもらうのが良いと思う。コンサートなどの公演を見に行きたいと思う人はもう少し多めに持っていくことを勧める。

私の場合、韓国での生活にかかったお金は約35万円ほどだった。思っていたより出費が多かったため、留学先での生活費は事前にアルバイトなどをしたためておくのが良いと思う。

韓国語がほとんど出来ない状態で留学へ行っても、何も心配することはない毎日少しずつ上達していく感覚が体で感じられるため、留学へいくことを心から勧めたい。金銭的に厳しいと思っても、両親に行きたい思いを伝えてみたほうが良いと思う。最初は行けないだろうな思っていたが、留学に行かなかったら自分が大学に進学した目的を果たせなくなると思い、両親を説得した。留学は一生忘れられない思い出にもなるため是非たくさんの学生に経験してほしい。